

拝啓 秋冷の候、ますますご健勝でいよいよご活躍、何よりとお喜び申し上げます。

十月一日、城北会理事鈴木信之氏(昭4)、花見一氏(昭5)、鈴木(旧姓本坂)定夫氏(昭9)の方々がご来訪下され、時計Ωなど過分の記念品をお贈り頂き、たゞたゞ感激いたしております。大正十四年四月、四中に奉職間もないころ、二年生五組(昭4)によつて与えられたΩでずつと、とおつて参りましたところ、今回終りを意味するΩをもつて終止符を打つて頂きました。

さて、数え年六十六にもなりますので、昨年四月の決意の通り、本年三月末日で退職させて頂きました。顧みますと、大正十四年、先輩松原先生のご紹介で、深井鑑一郎先生にご採用頂きました当初は何も判らなかつたのですが、諸先生方のご指導によりやつと緒につき、爾来三十六年間、ただ愚直にそれをもちつづけたというに過ぎません。それにも拘らず、卒業生の方々から、このように特別なお配慮に預り誠に恐縮しております。

ここに厚くお礼申し上げます。

敬具

昭和三十六年十月

荒田 治

尾崎 英二 様

お蔭で、元気に、武蔵工大付属高校・高田外語で働いております。

家内健在、長女(二女あり)、次女(一女あり)、長男・次男ともに、会社員(親子三人揃つて卒業生のお世話で)

小田急線経堂駅近くの陋屋ですが、お立ち寄り下さい。ご活動の模様をお聞きかせ頂きたいと存じております。